



あやめが丘の窓から

「言葉の力と危うさ」

校長 尾崎 健次

2学期は、体育祭に始まり、長崎がんばらんば国体、そして昨日の菖蒲祭と、大きな学校行事を終えました。それぞれ目的を達成し、十分な成果を収めることができた、と確信しています。明日から、また新しい月が始まります。気持ちを新たに、学習、部活動、学校行事、諸教育活動に一所懸命取り組んでいきましょう。精一杯の取組をすることで、必ず「成長」という二文字が見えてくるはずですよ。

さて、本号では、言葉が持っている力と言葉を使う際の危うさについて考えてみたいと思います。ケータイ・スマホ・インターネット等が有する光と影については、授業やテレビ・新聞等を通して、いろいろな角度から様々な情報を得ていると思います。それに比べ、私たち人間が、毎日の日常生活において、最も高い頻度で、何気なく使っている言葉の力と危うさについては、触れられることがあまりないようです。この時期に、一度真摯に考えてみるのが大事です。

皆さんも知っているように、今年のノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマララ・ユスフザイさんは、同年齢の17歳です。マララさんは、2013年7月12日に行った国連演説スピーチを以下の英文で締めくくっています。

One child, one teacher, one book and one pen can change the world.

Education is the only solution. Education first.

また、ノーベル平和賞を受賞した際に、喜びの気持ちを母語ではない英語でスピーチをしました。以下の英文は、スピーチの3か所からの抜粋です。

It does not matter what is the color of your skin, what language you speak, what religion you believe in. It is that we should all consider each other as human beings, and we should respect each other.

Ofirst of all, I would like to thank my family, my dear father and my dear mother for their love, for their support. As my father always says, he did not give me something extra. But what he did was he did not clip my wings.

Ol wanted to learn. I wanted to learn and be who I can be in my future. I also had dreams; like a normal child has. I wanted to become a doctor at that time, now I want to become a politician, a good politician.

一方、以下の文章は、日本のある中学生の詩です。

言葉は不思議だ。ノートに書いた字は、消しゴムで消せるのに、言った言葉は消しゴムでは消せない。ほめられるとうれしくなり、けなされると悲しくなる。やさしい言葉をかけられると、心が温かくなり、意地悪な言葉をかけられると、心が冷たくなる。何気ない一言でも、けんかになったり、仲良くなれたり。それはきっと、言葉は心で、心は言葉、だから消しゴムでは消せない。

私を含め、みんなで、言葉に対する『感性』を、なお一層大切にしていきたいものです。

11月 行事予定

1日	土	がんばらんば大会(～3日)	14日	金	乳幼児親子交流④(2年生創) PTA研究視察旅行(～15日)
2日	日	大学別オープン	15日	土	対外マーク模試(3年)(～16日) 就職公務員模試③(2年)
5日	水	県高校駅伝(3時間目授業後全校応援活動)	16日	日	開校記念日(112周年)
6日	木	L:学級独自	20日	木	考査時間割発表 L:交通安全学習 民間講師招へい事業(2年生創)
7日	金	保育園訪問(2年生創)	21日	金	月曜日課 補習中断
8日	土	補習(1・2年) 対外マーク模試(3年)	22日	土	島原地区PTA秋季研修会
11日	火	県高総文祭 人生の達人セミナー	25日	火	高校生活アンケート
13日	木	L:校内弁論大会	27日	木	期末考査(1・2年)(～12/2) 学年末考査(3年)(～12/2)

【部活動県新人戦等】

バド部:中地区新人戦(15・16日)、卓球部:県新人戦(15・16日)、バレー部:冬高予選(15・16日)、放送部:県大会(16日)

長崎がんばらんば国体2014



10月12日～22日にかけて長崎県内で行われました長崎がんばらんば国体に本校から**林田竜歩君、幾度涼太君、池田和花子さん、高木駿一君**の4名が選手として大会に出場しました。

50年に一度の大会で長崎全体が国体ムードに包まれる中、出場選手の4名のほか、本校の生徒・職員も補助員として大会を盛り上げました。

国体出場選手壮行式



大会結果

林田君:少年男子A やり投	14位
幾度君:少年男子共通 円盤投	12位
池田さん:少年女子共通 800m	予選敗退
高木君:少年男子共通 800m	準決勝敗退

たくさんのご声援ありがとうございました!

人権学習

文責：藤田綾子

平成26年10月16日、全校で集い、人権学習を行いました。今年のテーマは「命とは、生きることとは」です。以前NHKで放送されたドキュメンタリーを全校生徒で鑑賞しました。

●●●ドキュメンタリーの内容●●●

心臓を患い、幼い頃に心臓移植手術を受けた少女の記録です。移植時に、医師から「10年生きることを目指しましょう」と告げられます。病院での治療ではなく、命の時間を家族とともに過ごすために在宅医療で過ごしていく日々。様々な病を併発しながら、自分の命と向き合い、周りの人のことを思い、丁寧に生きる時間を重ねていきます。家族と交わす心のこもった言葉、周りの人々に心から接する様子は心を揺さぶります。命の期限の10年が過ぎ、18歳を迎えた彼女に、腎臓病の併発と人工透析の必要が生じます。しかし、彼女は透析を拒否し、自宅で過ごすことを自ら選びます。それは、命の選択でした……

《生徒の感想より》

◆自分はなんて小さい人間なんだろうと感じました。こんなにしっかり考えて、まっすぐ生きている人がいるのに自分は何をやっているのだろう。彼女のように大きすぎるものを抱えていても決して雑ではなく、丁寧に自分の生き方について考えています。自分は意味のある意思を持っているのか。今、目の前にあることを一生懸命に感じ、大きく考えられるようになること、それが大事だと思いました。

◆何気なく毎日を送る私にとって、彼女の「生きる」ことの重さにとっても胸が締め付けられました。透析を拒否した気持ちは私にはわかりませんが、彼女には生きることと死ぬことは隣合わせで同じことだったのかもしれない。何が大事かに気づき、自分ができることを精一杯していけば、この学習をしたことが意義のある大切なことになると思います。

◆彼女と周囲の人々の言葉のやりとりは、優しいものばかりでした。自分も医療の仕事に就きたいと考えているので、こんな言葉を使えるようになりたいと思いました。

◆この学習をして、とても考えさせられました。丁寧に生きるとは、どういうことか。何をするにもやるのは自分です。相手にどうしてほしいとどんなに望んでも、行動を決めるのは相手です。そう考えたら、これまでに多くの無駄な時間を過ごしていると思いました。

◆生きることや死ぬことについて、こんなに考えさせられたことはありません。幸せって何なのか難しいです。命の期限の決断を自分でするってどんなに苦しかったろうと思います。周りの人々もその決断を受け入れるのはきつかったろうと思います。生きてほしかったです。



センター試験100日前集会 成人大学講座閉講



10月9日、センター試験100日前集会が行われました。2学年による後輩からの応援ビデオが上映され、あたたかいメッセージに感動しました。

また、『-』の言葉を吐かず、『+』の言葉を積み重ねれば、夢が叶う」という3年4組富永一樹君の言葉に、一同「やるぞ!」と意気込みを新たにすることができました。



本年度の成人大学講座が全日程を終了しました。10月23日(木)に閉講式が行われました。

多くの方々への参加をいただき、今年も充実した講座となりました。来年度も皆様方のご参加を心からお待ちしております。

★今月の生活創造コース&1年生家庭科の取り組み★

【家庭クラブ総会】

10月9日(木) 1年生全員と2年生、3年生の生活創造コースが会員となる、家庭クラブの総会が行われました。長崎県食品安全・消費生活課の青崎孔先生を講師に招き、消費に関わる事件から私たちを取り巻く消費社会について教えていただきました。



《3年生》

10月 8日(水) 玉成園にて、着脱と排泄の実習を行いました。
15日(水) 玉成園デイサービスを訪問し、利用者の方々との交流しました。
21日(火) 保育選択生が保育園実習を行いました。

《2年生》

11日(土) 口之津図書館でおはなし会の担当をしました。



《1年生》

先月に引き続き1年生2クラスが玉成園を訪問しました。利用者の方とのふれあいは、高齢社会の現状について考えるよい機会となりました。
10日(水) 1-1 24日(金) 1-2

